

J 4—1

(文法)

担当者：小森 由里 (Komori, Yuri)
平山 紫帆 (Hirayama, Shiho)

開講学期：前期・後期

単位数：各 1 単位

■**授業の目標**：初級で学習した文法事項、文型を復習しながら、それらが正しく、流暢に使えるようになることを目指す。学生が知識として持っている文型や語彙を、日常生活の様々な場面で活用できるレベルに高めることを目指す。

■**授業の内容**：初級レベルでは別々に勉強した文型を複数組み合わせ、より日本語らしい文を作成できるような練習を行う。短文作成のような練習に加えて、口頭での発話練習も同時に行い、日常会話や書き言葉の中で、実践的に日本語を使う練習を行う。

■**授業計画**：初級文法、文型の復習を行い、個々の学生が正しい日本語を産出できるようにするとともに、それらを複数組み合わせ、自然な日本語が使えるための練習を行う。毎回、短文作成などの宿題を課す。

■**成績評価方法・基準**：出席・参加度 40%，課題・宿題 20%，中間テスト 10%，期末テスト 30%

■**テキスト**：特に指定せず。

■**参考文献**：授業で適宜紹介する。

■**準備学習・その他(HP等)**：必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

J 4—2

(読解)

担当者：御子神 佳奈 (Mikogami, Kana)
平山 紫帆 (Hirayama, Shiho)

開講学期：前期・後期

単位数：各 1 単位

■**授業の目標**：初級段階の文法事項を学習した学習者を対象とする。様々な分野の読解教材を数多く読み、徐々に長い文章にも対応できるようにしていく。読解を通して使用語彙、理解語彙を増やすとともに、初級文型や初級語彙が使用語彙にまで高まるような練習を行う。

■**授業の内容**：様々な分野の読解教材を軸として、辞書の引き方、読みのスキルの学習、内容把握などを行う。(文法で触れた文型を扱うことが多いため、文法の授業の履修を勧める。)

■**授業計画**：小説、エッセイ、新聞や雑誌の記事などの様々な文章の読解を行う。

■**成績評価方法・基準**：出席・参加度 40%，課題・宿題 30%，期末テスト 30%

■**テキスト**：特に指定せず。

■**参考文献**：授業で適宜紹介する。

■**準備学習・その他(HP等)**：必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

J 4—3

(作文)

担当者：長谷川 孝子 (Hasegawa, Takako)

開講学期：前期・後期

単位数：各 1 単位

■**授業の目標**：初級で学習した語彙や文型の定着を目的とする。具体的には、それらを使って正しい文章が産出できるようになることを目指す。

■**授業の内容**：初級で学習した語彙や文型を複数組み合わせ、長い 1 文を作成する練習を繰り返す。単に意味が通じるだけでなく、助詞の間違いや語彙レベルの不適切さなどにも注意を向け、自然で洗練された日本語を作る練習を行う。

■**授業計画**：単にパターンや構成の導入のみでなく、それらを使った作文を重要視して授業を進める。(文法で触れた文型を扱うことが多いため、文法の授業の履修を勧める。)

■**成績評価方法・基準**：出席・参加度 40%，課題・宿題 30%，期末テスト 30%

■**テキスト**：授業で紹介する。

■**参考文献**：授業で適宜紹介する。

■**準備学習・その他(HP等)**：必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

J 4—4

(聴解・会話)

担当者：高村 めぐみ (Takamura, Megumi)
御子神 佳奈 (Mikogami, Kana)
山内 薫 (Yamauchi, Kaori)

開講学期：前期・後期

単位数：各 1 単位

■**授業の目標**：初級修了レベルの学習者を対象とし、日常生活における様々な場面での聴解と会話能力の育成を目指す。相手の話すことを正確に把握し、それに対して自分の意見等を正しい日本語できちんと発表できるようになることを目標とする。

■**授業の内容**：テープやビデオなどの教材をもとに、内容の聞き取り、さらにそれについての意見発表などを行う。

■**授業計画**：日常生活，大学生活の中での様々な場面を取り上げ、ロールプレイやプレゼンテーションなどの方法を取り入れながら、授業を行う。(文法で触れた文型を扱うことが多いため、文法の授業の履修を勧める。)

■**成績評価方法・基準**：出席・参加度 40%，課題・宿題 30%，期末テスト 30%

■**テキスト**：プリント等。

■**参考文献**：授業で適宜紹介する。

■**準備学習・その他(HP等)**：必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

J 5—1

(文法)

担当者：長島 明子 (Nagashima, Akiko)

開講学期：前期・後期

単位数：各 1 単位

■**授業の目標**：初中級で学習した文法事項、文型を復習しながら、エッセイや会話などで頻繁に用いられる中級文型を紹介する。学生が知識として持っている文型や語彙を、日常生活の様々な場面で活用できるレベルに高めることを目指す。

■**授業の内容**：日常会話や書き言葉の中で使われる文型や語彙の学習を行う。単に導入するのではなく、新しい文型を実際に使う練習を重視する。

■**授業計画**：初級文法、文型の復習を行い、個々の学生が正しい日本語を産出できるようにするとともに、新しい文法事項、文型(会話の文型、読みの文型)の導入や練習を行う。

■**成績評価方法・基準**：出席・参加度 40%，課題・宿題 20%，中間テスト 10%，期末テスト 30%

■**テキスト**：特に指定せず。

■**参考文献**：授業で適宜紹介する。

■**準備学習・その他(HP等)**：必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

J 5—2

(読解)

担当者：小島 佳子 (Kojima, Keiko)

開講学期：前期・後期

単位数：各 1 単位

■**授業の目標**：初中級段階の文法事項を完璧に学習した学習者を対象とする。様々な分野の読解教材を数多く読み、長い文章にも対応できるようにする。読解を通して使用語彙、理解語彙を増やす。また、読むスピードを速くする練習も行う。

■**授業の内容**：様々な分野の読解教材を軸として、辞書の引き方、読みのスキルの学習、内容把握などを行う。

■**授業計画**：小説、エッセイ、新聞や雑誌の記事などの様々な文章の読解を行う。

■**成績評価方法・基準**：出席・参加度 30%，課題・宿題 40%，期末テスト 30%

■**テキスト**：特に指定せず。

■**参考文献**：授業で適宜紹介する。

■**準備学習・その他(HP等)**：必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

J 5—3

(作文)

担当者：長谷川 孝子 (Hasegawa, Takako)
開講学期：前期・後期
単位数：各 1 単位

■**授業の目標**：初中級で学習した語彙の定着，およびさらに語彙数を増やすこと，および初中級で学習した文型を使って，レポートや作文を書く力をつけることを目的とする。

■**授業の内容**：教室ではレポートや作文の構成について学習し，毎回800字から1000字程度の作文を書き，それについてのフィードバックを行う。

■**授業計画**：単にパターンや構成の導入のみでなく，それらを使った作文を重要視して授業を進める。

■**成績評価方法・基準**：出席・参加度40%，課題・宿題30%，期末テスト30%

■**テキスト**：授業で紹介する。

■**参考文献**：授業で適宜紹介する。

■**準備学習・その他(HP等)**：必要な準備学習については，毎回の授業で指示する。

J 5—4

(聴解・会話)

担当者：小松 満帆 (Komatsu, Maho)
保坂 明香 (Hosaka, Asuka)
高村 めぐみ(Takamura, Megumi)
山内 薫 (Yamauchi, Kaori)

開講学期：前期・後期

単位数：各 1 単位

■**授業の目標**：初中級修了レベルの学習者を対象とし，日常生活における様々な場面の聴解と会話能力の育成を目指す。相手の話すことを正確に把握し，それに対して自分の意見等をきちんと発表できるようになることを目標とする。

■**授業の内容**：テープやビデオなどの教材をもとに，内容の聞き取り，さらにそれについての意見発表などを行う。

■**授業計画**：日常生活，大学生活の中での様々な場面を取り上げ，ロールプレイやプレゼンテーションなどの方法を取り入れながら，授業を行う。

■**成績評価方法・基準**：出席・参加度30%，課題・宿題40%，期末テスト30%

■**テキスト**：プリント等。

■**参考文献**：授業で適宜紹介する。

■**準備学習・その他(HP等)**：必要な準備学習については，毎回の授業で指示する。

J 6—1

(文法)

担当者：長島 明子 (Nagashima, Akiko)

林 里香 (Hayashi, Rika)

開講学期：前期・後期

単位数：各 1 単位

■授業の目標：日常会話や小説などで用いられるやや高度な文法，文型の理解を目的とする。

■授業の内容：ビデオ，新聞記事，小説などの中で使われる文型や語彙の学習を行う。単に導入するのではなく，新しい文型を実際に使う練習を重視する。

■授業計画：新しい文法事項，文型(会話の文型，読みの文型)の導入や練習を行う。

■成績評価方法・基準：出席・参加度40%，課題・宿題20%，中間テスト10%，期末テスト30%

■テキスト：特に指定せず。

■参考文献：授業で適宜紹介する。

■準備学習・その他(HP等)：必要な準備学習については，毎回の授業で指示する。

J 6—2

(読解)

担当者：小島 佳子 (Kojima, Keiko)

開講学期：前期・後期

単位数：各 1 単位

■授業の目標：様々な分野の文章を読み，内容を理解することができるようになることを目標とする。

■授業の内容：読解を通して，語彙を増やすとともに，様々なスタイルの文章に触れて，読みのスキルを伸ばす。また，読むスピードを速くする練習も行う。

■授業計画：小説やエッセイ，新聞や雑誌の記事などの様々な文章の読解を行う。

■成績評価方法・基準：出席・参加度30%，課題・宿題40%，期末テスト30%

■テキスト：プリント教材。

■参考文献：授業で適宜紹介する。

■準備学習・その他(HP等)：必要な準備学習については，毎回の授業で指示する。

J 6—3

(作文)

担当者：川端 芳子 (Kawabata, Yoshiko)

開講学期：前期・後期

単位数：各 1 単位

■授業の目標：これまでにながくしゅうしたぶんけいを使つて、レポートや作文を書きかちから力をつけることを目的とする。

■授業の内容：レポートや作文の構成についてながくしゅうし、まいかい 800 から 1200 字程度の作文を書き、それについてのフィードバックを行う。きちんとした構成で文章が組み立てられているかを重視するため、最初は与えられた構成パターンに従いながらレポートを作成する練習を繰り返す。

■授業計画：毎回、テーマごとに、例となる文章を提示し、その文章の構成パターンに沿った文章を作成する練習を行う。さらに、自分の意見をまとめるだけでなく、長文を読み、その内容に基づいて自分の意見をまとめる練習も行う。

■成績評価方法・基準：出席・参加度 40%，課題・宿題 30%，期末テスト 30%

■テキスト：授業で紹介する。

■参考文献：授業で適宜紹介する。

■準備学習・その他(HP等)：必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

J 6—4

(聴解・会話)

担当者：高橋 雅子 (Takahashi, Masako)

山内 薫 (Yamauchi, Kaori)

平山 紫帆 (Hirayama, Shiho)

保坂 明香 (Hosaka, Asuka)

開講学期：前期・後期

単位数：各 1 単位

■授業の目標：基礎的な文法や語彙を理解してはいるが、実生活レベルでの聴解能力や会話能力がない学習者を対象として、実質的な運用能力の育成を目指す。

■授業の内容：日本語学習者向けに編集されていない教材を用い、たくさんの生の日本語に触れることによって実践的な力を身につけていく。授業では、テープやビデオなどたくさんの生教材を用い、それらの内容把握、そしてそれについてのプレゼンテーションを行う。

■授業計画：生の教材を利用して、毎時間多くの聴解、そしてプレゼンテーションを行う。細かい語彙や文型の説明より、内容把握、情報発信に重点をおいて授業を行うため、学習者一人一人の積極的な授業参加が強く求められる。

■成績評価方法・基準：出席・参加度 30%，課題・宿題 40%，期末テスト 30%

■テキスト：プリント教材。

■参考文献：特に指定しない。

■準備学習・その他(HP等)：必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

J 7—1

(文法)

担当者：長谷川 孝子 (Hasegawa, Takako)

開講学期：前期・後期

単位数：各 1 単位

■**授業の目標**：文学作品や専門的な雑誌記事，さらには公式なスピーチなどで用いられる高度な文型を理解し，自分の会話や作文で流暢に使えるようになることを目指す。

■**授業の内容**：文学作品や雑誌記事，演説などから文型を抽出し，それらのパターンや用法を理解するため，多くの例文に触れる。また，自分でそれらの文型を使えるようになるまで，短文練習を繰り返し行う。

■**授業計画**：毎回，10程度の新しい文型を導入し，それについての練習を行う。新しく導入された文型を使った短文作成を宿題として課す。

■**成績評価方法・基準**：出席・参加度^{しゅつせき きんかど}40%，課題・宿題^{かだい しゅくだい}20%，中間テスト^{ちゅうかん}10%，期末テスト^{きまつ}30%

■**テキスト**：特に指定しない。

■**参考文献**：授業で適宜紹介する。

■**準備学習・その他(HP等)**：必要な準備学習については，毎回の授業で指示する。

J 7—2

(読解)

担当者：小森 由里 (Komori, Yuri)

金庭 久美子 (Kaneniwa, Kumiko)

開講学期：前期・後期

単位数：各 1 単位

■**授業の目標**：文学作品や専門的な雑誌記事などの長文を読み，その内容を理解し，自分の言葉でその内容を説明できるようになることを目指す。

■**授業の内容**：高度な日本語で書かれた長文の読解を行い，語彙や漢字の知識を増やすとともに，日常会話ではあまり使われないスタイルの文章に触れることで，読みのスキルを伸ばす。また，読むスピードを速く練習も行う。

■**授業計画**：毎時間，長文の読解，内容把握，語彙の理解確認などを行う。内容については，ぼんやりとわかる程度ではなく，読み取った内容について，他の人に伝えることができるぐらい深く理解するための練習を行う。

■**成績評価方法・基準**：出席・参加度30%，課題(宿題)提出状況 40%，期末テスト30%

■**テキスト**：特に指定しない。

■**参考文献**：授業で適宜紹介する。

■**準備学習・その他(HP等)**：必要な準備学習については，毎回の授業で指示する。

J 7—3

(作文)

担当者：川端 芳子 (Kawabata, Yoshiko)

開講学期：前期・後期

単位数：各 1 単位

■**授業の目標**：これまでに学習した語彙や文型を使って、「作文」ではなく、レポートや報告書を書く力をつけることを目的とする。

■**授業の内容**：大学レベルで必要とされる長文作成(レポートや調査報告書など)のための練習を行う。具体的には、レポートの構成や機能(例示や引用, 反論, など)ごとに, たくさんの例を示しながら, そこで使われる語彙や文型に触れ, 最終的には参加者自身が長い文章を作成する。単に自分の意見を書くだけでなく, 文章を読み, それを理解したうえで, 自分の意見を関連付けてまとめる練習を行う。

■**授業計画**：毎回, 決まったテーマに基づいて練習を行う。学期中には, ほぼ毎回, 作文の課題あるいは, 作文を書くための文章読解の宿題が課される。

■**成績評価方法・基準**：出席・参加度 40%, 課題・宿題 30%, 期末テスト 30%

■**テキスト**：特に指定しない。

■**参考文献**：授業で適宜紹介する。

■**準備学習・その他(HP等)**：必要な準備学習については, 毎回の授業で指示する。

J 7—4

(聴解・会話)

担当者：高村 めぐみ (Takamura, Megumi)

山内 薫 (Yamauchi, Kaori)

保坂 明香 (Hosaka, Asuka)

開講学期：前期・後期

単位数：各 1 単位

■**授業の目標**：日本語学習者向けに作られた教材ではなく, 生の教材を用い, 日常生活だけでなく, 講義や講演などやや専門的な内容も聞き取れることを目指す。また, 会話ではなく, プレゼンテーションやスピーチなど, 改まった「独話」のスキルも向上させる。

■**授業の内容**：たくさんの生教材に触れることによって, 日本語の実践力を高める。授業では, ビデオやテープなどを視聴し, それらの内容把握, それについてのディスカッションやプレゼンテーションなどを行う。友達同士の会話ではなく, 「きちんとした日本語」で自分の意見を伝える練習も行う。

■**授業計画**：クラスでは, ビデオ視聴をしたあと, その内容理解をディスカッションや QA を通して行う。そのため, 各参加者の積極的な参加姿勢が望まれる。また, その際, くだけた日本語で意見を発表するのではなく, 「きちんとした日本語」で, 他者と意見交換することについても注意が求められる。

■**成績評価方法・基準**：出席・参加度 30%, 課題・宿題 40%, 期末テスト 30%

■**テキスト**：特に指定しない。

■**参考文献**：授業で適宜紹介する。

■**準備学習・その他(HP等)**：必要な準備学習については, 毎回の授業で指示する。

J 8—1 A**(日本の文化・社会A)****担当者**：金庭 久美子 (Kaneniwa, Kumiko)**開講学期**：前期**単位数**：1単位

■**授業の目標**：高度な日本語能力を運用して、日本の社会や文化について考え、理解を深めることを目的とする。

■**授業の内容**：現代日本の文化や社会に関するテーマの中から、受講生の興味・関心に合うものを選び、そのテーマに沿って授業を進める。

■**授業計画**：日本文化や社会に関わるテーマを選び、それに関する文献を読んだり、ビデオを見たりする。

講義も行うが、主としてテーマについてのディスカッションやプレゼンテーションを中心とした授業を行い、最後にまとめとしてレポートを提出する。

■**成績評価方法・基準**：出席率および課題・授業への取り組み50%、レポートおよびプレゼンテーション50%を基本とし、総合的に評価を行う。

■**テキスト**：指定しないが、必要なものを適宜配布する。

■**参考文献**：授業で適宜紹介する。

■**準備学習・その他(HP等)**：必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

J 8—1 B**(日本の文化・社会B)****担当者**：丸山 千歌 (Maruyama, Chika)**開講学期**：後期**単位数**：1単位

■**授業の目標**：高度な日本語能力を運用して、日本の社会や文化について考え、理解を深めることを目的とする。

■**授業の内容**：現代日本の文化や社会に関するテーマの中から、受講生の興味・関心に合うものを選び、そのテーマに沿って授業を進める。

■**授業計画**：日本文化や社会に関わるテーマを選び、それに関する文献を読んだり、ビデオを見たりする。

講義も行うが、主としてテーマについてのディスカッションやプレゼンテーションを中心とした授業を行い、最後にまとめとしてレポートを提出する。

■**成績評価方法・基準**：出席率および課題・授業への取り組み50%、レポートおよびプレゼンテーション50%を基本とし、総合的に評価を行う。

■**テキスト**：指定しないが、必要なものを適宜配布する。

■**参考文献**：授業で適宜紹介する。

■**準備学習・その他(HP等)**：必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

J 8—2 A

(日本語の諸相A)

担当者：長島 明子 (Nagashima, Akiko)

開講学期：前期

単位数：1単位

■**授業の目標**：1つの言語としての日本語を取り上げ、他の言語と比較した場合に特徴的な日本語の側面を理解する。

■**授業の内容**：擬音語・擬態語，様々な感情表現，微妙なニュアンスを表す副詞，位相や役割語など，日本語の特徴的な側面を取り上げ，それについての論文を読んだり，調査をしたりする。

■**授業計画**：毎学期，日本語の特徴的な1つの側面を取り上げ，それについて，論文を読んだり，複数の事例に触れたりした後，ディスカッションしながら，理解を深めていく。また，学んだ語彙や表現などを使用した文章の作成などを通して，より高度で自然な日本語運用能力を身につける。最後には，テーマに関するトピックについて自分で調べたものをプレゼンテーションし，さらにレポートにまとめる。

■**成績評価方法・基準**：出席およびクラスでの発言・ディスカッション30%，プレゼンテーション35%，レポート35%

■**テキスト**：指定しない。必要があれば適宜配布する。

■**参考文献**：授業で適宜紹介する。

■**準備学習・その他(HP等)**：必要な準備学習については，毎回の授業で指示する。

J 8—2 B

(日本語の諸相B)

担当者：長島 明子 (Nagashima, Akiko)

開講学期：後期

単位数：1単位

■**授業の目標**：1つの言語としての日本語を取り上げ、他の言語と比較した場合に特徴的な日本語の側面を理解する。

■**授業の内容**：擬音語・擬態語，様々な感情表現，微妙なニュアンスを表す副詞，位相や役割語など，日本語の特徴的な側面を取り上げ，それについての論文を読んだり，調査をしたりする。

■**授業計画**：毎学期，日本語の特徴的な1つの側面を取り上げ，それについて，論文を読んだり，複数の事例に触れたりした後，ディスカッションしながら，理解を深めていく。また，学んだ語彙や表現などを使用した文章の作成などを通して，より高度で自然な日本語運用能力を身につける。最後には，テーマに関するトピックについて自分で調べたものをプレゼンテーションし，さらにレポートにまとめる。

■**成績評価方法・基準**：出席およびクラスでの発言・ディスカッション30%，プレゼンテーション35%，レポート35%

■**テキスト**：指定しない。必要なものは適宜配布する。

■**参考文献**：クラスで適宜紹介する。

■**準備学習・その他(HP等)**：必要な準備学習については，毎回の授業で指示する。

J 8—3

(日本語論文作成法)

担当者：金庭 久美子 (Kaneniwa, Kumiko)
開講学期：後期
単位数：1単位

■**授業の目標**：卒業論文や学術的な論文作成に必要とされる語彙，文型，スキルについて学び，高度な日本語論文作成能力がつくようになる。

■**授業の内容**：日本語の論文の構成，スタイル，使用される語彙や接続表現，文型の特徴について学び，自らがそれらを用いて構成の組み立てや短文作成などを行う。その後，実際の論文作成を行い，実践力をつける。講義も行うが，参加者自身の論文作成に基づいた授業を行う。

■**授業計画**：毎回，「論文構成」「語彙」「接続表現」などのテーマを決め，そのテーマに沿った学習および短文作成を行う。随時，論文要約なども取り入れながら，作成する文章を徐々に長く，高度なものにしていき，最終的には1つのまとまった論文作成を行う。参加者それぞれが問題意識を持ち，自分の間違いに気づき，それを修正していくスキルが身につくように授業を行う。

学術論文，卒業論文の作成に困難を感じている者には特に履修をすすめる。

■**成績評価方法・基準**：出席および参加度30%，宿題・提出物などの課題30%，最終課題(論文・レポート)40%

■**テキスト**：指定しない。必要なものは適宜配布する。

■**参考文献**：クラスで適宜紹介する。

■**準備学習・その他(HP等)**：必要な準備学習については，毎回の授業で指示する。

J 8—4

(日本語論文読解)

担当者：丸山 千歌 (Maruyama, Chika)
開講学期：前期
単位数：1単位

■**授業の目標**：日本語で書かれた学術論文の内容が読み取れるようになることを目指し，日本語論文の構成，語彙などについて学ぶ。

■**授業の内容**：参加者の専門に沿った学術論文を数編選び，「構成」「スタイル」「語彙」「文型」「文末表現」「引用の仕方」「参考文献の提示方法」などの点に留意しながら読む。また，読み取った内容を簡潔に要約する訓練も行う。

■**授業計画**：参加者の専門ごとに，学術論文を数編ずつ選び，日本語学術論文の特徴に留意しながら読む。毎週1つの論文を読み(宿題)，その論文から読みとれる日本語論文の特徴について講義およびディスカッションを行う。論文独特の語彙や表現については，例文などを提示しながら，短文作成を行う。さらに，いくつかの論文については，要約を行い，読み取った内容を簡潔にまとめる練習も行う。

■**成績評価方法・基準**：出席および授業への参加度30%，宿題・提出物など40%，論文のレジュメ発表30%

■**テキスト**：指定しない。必要なものは適宜配布する。

■**参考文献**：授業で適宜紹介する。

■**準備学習・その他(HP等)**：必要な準備学習については，毎回の授業で指示する。

J 8—5 A

(キャリアジャパニーズA)

担当者：山辺 真理子(Yamabe, Mariko)
高村 めぐみ (Takamura, Megumi)
開講学期：前期・後期
単位数：各 1 単位

■**授業の目標**：日本での就職活動に必要な日本語やビジネスマナー、様々な日本語運用スキルを学び、それが使えるようになる。

■**授業の内容**：就職活動に必要な日本語に関連する様々な事柄—「エントリーシートの書き方」「自己PRの仕方」「集団面接の受け方」「個人面接の受け方」などを実践的に学びながら、高度な日本語運用について学ぶ。さらに、面接に行く際のマナーについても取り上げる。

■**授業計画**：就職活動の際に必要とされる日本語に関連する事柄を、大きく「作文スキル」「発話スキル」「ビジネスマナー」に分類し、それぞれについて実例を挙げながら実践的に学ぶ。「作文スキル」「発話スキル」については、実際に自分で何度も書いたり話したりする活動を行い、それに対するフィードバックを受けることでスキルアップを目指す。また、服装や態度などのビジネス関連マナーについても学び、それを実際の就職活動に活かすことができるようにする。

■**成績評価方法・基準**：出席および参加度 35%，宿題および作文など様々な課題 35%，期末に実施するエントリーシート作成と面接 30%

■**テキスト**：指定しない。必要なものはクラスで配布する。

■**参考文献**：授業で適宜紹介する。

■**準備学習・その他(HP等)**：必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

J 8—5 B

(キャリアジャパニーズB)

担当者：小松 満帆(Komatsu, Maho)
開講学期：前期・後期
単位数：各 1 単位

■**授業の目標**：日本独特の就職試験(主として国語分野)を突破するために必要な日本語の知識とスキルを身につける。

■**授業の内容**：就職試験の国語分野、常識分野の試験問題を数多く解き、それについての説明を受けることで、日本の就職試験の傾向を知ると同時に、対応スキルを身につける。

■**授業計画**：就職試験問題を数多く知るために、毎回、たくさんの問題に取り組む。効率的に授業をすすめるために、宿題としても試験問題を課し、授業中は解説や質問対応などにより多く時間を割く。個々の試験問題についての解説なども行うが、主として参加者が積極的に与えられた問題に数多く取り組み、それを通して就職試験について「知ろう」とする姿勢が必要である。

■**成績評価方法・基準**：出席および質問など授業への参加度 30%，宿題 35%，就職試験形式の最終テスト 35%

■**テキスト**：指定しない。必要なものはクラスで配布する。

■**参考文献**：必要なものは授業で紹介する。

■**準備学習・その他(HP等)**：必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

J 8—7 1

(ビジネス日本語口頭1)

担当者： 藤田 恵 (Fujita, Megumi)
栗田 奈美 (Kurita, Nami)

開講学期：前期・後期

単位数：各1単位

■**授業の目標**：ビジネスで必要とされる構文レベルの日本語力(聴解, 発話)を身につける。

■**授業の内容**：ビジネス場面で必要とされる構文レベルの口頭日本語能力—敬語や待遇表現—について, 電話応対, 依頼, 報告, 相談など実際の場面を設定して実践的に学び, それができるように練習する。また, プレゼンテーションの仕方についてもスキルアップを目指す。

■**授業計画**：ビジネス場面で共通に求められる敬語や待遇表現について, 様々なビジネス場面を設定した上で実践的に学ぶ。「文法」の授業のような講義形式ではなく, 参加者がこれまで学んだ日本語力を総合的に使うことができるように, 参加者主体の授業をすすめる。「通じればいい」という姿勢ではなく, 「相手に対して失礼にならない日本語で話す」という姿勢で授業に臨むことが大切。そのために, 授業では, 敬語や待遇表現などの日本語の側面だけでなく, 話すあるいは相手の話を聞く際の態度についても学び, それができるように練習する。

■**成績評価方法・基準**：出席および授業活動への参加度50%, 聴解テストおよびプレゼンテーション50%

■**テキスト**：指定しない。必要なものは授業で配布する。

■**参考文献**：必要なものは授業で紹介する。

■**準備学習・その他(HP等)**：必要な準備学習については, 毎回の授業で指示する。

J 8—7 2

(ビジネス日本語口頭2)

担当者： 藤田 恵 (Fujita, Megumi)
栗田 奈美 (Kurita, Nami)

開講学期：前期・後期

単位数：各1単位 J 8—7 1を先修

■**授業の目標**：ビジネスで必要とされる談話レベルの日本語力(聴解, 発話)を身につける。

■**授業の内容**：ビジネス場面で必要とされる高度な口頭日本語能力について, 実践的に学び, それができるように練習する。また, プレゼンテーションの仕方についてもスキルアップを目指す。ビジネス日本語口頭2では, 短い構文レベルではなく, 交渉や苦情処理, 営業などを扱う。

■**授業計画**：敬語や待遇表現など, 構文レベルのビジネス日本語能力を前提として, さらなるビジネス日本語能力の向上を目指す。具体的には, 交渉・苦情処理・営業・会議でのプレゼンテーションなど, 比較的長く, 相手との複雑なインターアクションが必要とされる日本語について, 実践的に授業を行うため, 受身ではない, 参加者の積極的な関与が望まれる。

■**成績評価方法・基準**：出席および授業活動への参加度50%, ロールプレイまたはプレゼンテーション50%

■**テキスト**：指定しない。必要なものは授業で配布する。

■**参考文献**：必要なものは授業で紹介する。

■**準備学習・その他(HP等)**：必要な準備学習については, 毎回の授業で指示する。

J 8—8

(ビジネス日本語 (文書))

担当者：山辺 真理子 (Yamabe, Mariko)

丸山 千歌 (Maruyama, Chika)

開講学期：前期・後期

単位数：各1単位

■**授業の目標**：日本でのビジネスに必要な日本語能力(読解, 作文)について学び, 使えるようになる。

■**授業の内容**：日本で就職したり, 日系企業で働いたりする際に必要となるビジネス文書の読解や作成について, 具体例を挙げながら実践的に学び, 実際にビジネス文書が読め, 作れるところまで練習する。

■**授業計画**：ビジネス場面で使われる様々な文書(報告書, 提案書, 依頼書など)の実例を使い, 形式や語彙, 文型などについて学ぶ。さらに, 参加者自らがビジネス文書を作成し, 学んだ語彙や文型などを使えるようになるまで繰り返し練習する。

実際の文書だけでなく, ビジネスでメールを使う際の形式やルール, マナーについても学び, 様々な場面を設定して実際にメール作成を行う。

■**成績評価方法・基準**：出席および授業への参加度30%, 授業や宿題などで作成する文書やメール40%, 最終課題として提出する文書・メール30%

■**テキスト**：指定しない。必要なものは授業で配布する。

■**参考文献**：必要なものは授業で紹介する。

■**準備学習・その他(HP等)**：必要な準備学習については, 毎回の授業で指示する。